講演会・全体会午前の部

司会者(ak･al)　ただ今より，講演会ならびに全体会午前の部を行いたいと思います。午前の部の司会を担当させていただきます松茂中学校３年 ak と，松茂中学校３年 al です。よろしくお願いします。

それでは，早速講演会に移りたいと思います。パネリストは bz さん，bw さん，bs さん。コーディネーターは吉成正士さんです。どうぞ，よろしくお願いします。

吉成　講演会に入る前に，実行委員会で全体で決まったことなんですけど，このあと石川一雄さんの追悼の黙祷と，追悼動画視聴をしようと思います。

そもそも石川一雄という名前を聞いてもまったく分からない人もいると思いますので少しだけ話をすると。狭山事件という事件がありまして，1963年(昭和38年)に起こった事件ですけど。埼玉県に狭山市という町があります。そこで女子高生が殺害されるという事件が起きました。そのときに，どうしても犯人を生きて捕まえるというふうになって，そのときにアリバイのなかった近くの被差別部落に住まわれている石川一雄という人物に焦点が当たりました。別の容疑で石川さんは逮捕されたんですけど，取り調べの中で無理やり自白を強要され，その女子高生を殺したのは自分であるという自白をしてしまい，一審で死刑。二審で無期懲役刑を受けます。石川さんは途中から，自分がやったということを翻して，実は自分はやっていないということを言い始めるわけなんです。じゃあなぜ自白したのか。自白してしまったのか。翻してしまったのか。というところにこの事件のおかしさがあります。被差別部落出身であるということが，その根っこにあります。

実は一昨日も前川さんという方が再審無罪になりました。この人も自白を強要されて，自分がやったということになって，実はその取り調べには問題があるということで無罪になりました。袴田事件なんかもそうで，実はここ数年，たくさんの事件の中で，無理やり自白を強要されて，再審が行われて無罪が確定したという事件が相次いでいます。いったい警察とは何なのか，検察とは何なのかということを，問い直すような事件が続いています。実は石川一雄さんも，やってないということを主張し続けてきたんですけど，今から30年前。ちょうどこの中学生集会を立ち上げた年と近いんですね。そのときに仮釈放という形で出てはきたんですけど，その後も無罪を訴えて，第３次再審請求をしていました。24歳で逮捕されて，86歳まで無罪を訴えてきたんですけど，再審が叶うことなく今年の３月11日に亡くなられました。これは重大な部落差別であると私は思っていますし，なおかつ仮釈放で出てきて以降，1996年に結婚されました。結婚した相手の方は徳島市の出身で，私が勤めた学校の卒業生で。実は深いつながりがあるなかで，徳島でも狭山事件を本当に，みんなが知っているわけではないので，みんなが知っていかないかんし，やっぱりこの裁判を支援していかないかんていううねりも感じています。

実は今回，３月11日に亡くなったあと，告別式もあったんですけど，それにあわせて追悼動画が作られました。15分くらいあります。皆さんで，ぜひ黙とうにご協力い

ただいた後，追悼動画を前のスクリーンで観ていただきたいと思います。その動画は，映画監督のキム監督が以前に撮った映画を短編にまとめたものです。ぜひご覧になってもらえたらと思います。いろんな場面，徳島の風景も出てきます。

それではまず黙とうをしたいと思いますので，ご協力いただける方はご起立ください。

それでは石川一雄さんのご逝去にたいしまして，ご冥福をささげたいと思います。黙とう。

《　黙とう・追悼動画視聴　》

今，追悼動画観てもらいましたけど。ホント，人の人生って何なんだろうかなって。生きるって何なんだろうかなって。もし自分がその立場だったら，と考えながら皆さんご覧になられたんじゃないかなと思います。62年間，無実の罪で過ごさざるを得ない人生ってどうなのかなって。このなかにも，もしかすると将来，警察官，検察に入りたいと思っている人もいるかもしれません。ぜひ公正・公平な仕事をしてほしいなと思います。

このあと３人から，それぞれお話をしてもらいますけど，高校２年生，１年生，２年生。ここで育ってきた OB であり，OG です。では１番は鳴門渦潮高校２年生ですけども，今日は先ほどの石川一雄さんの動画を観てもらって，生きるって何なんだろうかな，命って何なんだろうかなっていう部分にもつながるかなと思うんですけど，このあと話をしてもらいます。スライドを見ながらお話を聞いていただけたらと思います。お願いします。

鳴門渦潮高校２年bz　それでは話し始めていこうと思います。皆さんこんにちは。今日話す大きなテーマは，「命をつなぐ献血」です。献血で助けられた人の命っていうことを大きな一つのテーマとして，話していこうと思います。まず献血と聞いて，行ったことがありますよっていう人。中高生はまだ行ける人は少ないので。ありがとうございます。献血すごく大事だよっていうことを，今日は皆さんに伝えようと思うので，少し長いかもしれませんけど，つきあってくれたらうれしいです。

今日の雑談内容，まず自己紹介します。そして献血とは何か。軽く説明しようと思います。命を救う献血。献血によって，どんなふうに命が救われるのかっていうことを話していこうと思います。そして献血によって実際に助けられた命があるんだよ。まとめ，最後に一言言おうと思います。では始めていきます。お願いします。

まずは自己紹介からしていきます。鳴門

渦潮高校２年の bz といいます。部活は剣道部に入っています。好きな食べ物，お肉，お魚，何でも食べます。嫌いな食べ物はタバスコです。食べ物というか，嫌いなものはタバスコで，特にすき家にあるチーズ牛丼に付いてくるタバスコが一番嫌いです。趣味は漫画とか読書とかゲームとかスポーツ観戦などいろんな趣味があって，結構何でも好きです。そして人生のモットーなんですけど，警察のお世話にならないというのがモットーで。警察がすごく怖くて。警察だけにはお世話にならないでおこうと思っています。軽く自己紹介をしたところで，では本題に入っていきます。

献血とは何か。献血は聞いたことはあるけど，行ったことはないなっていう人がたくさんいると思うので，世間にはどんなイメージがあるのかと思って調べてみました。肯定的なイメージにはこんなものがあります。社会貢献になります。誰かの役に立てます。その通りですね。では反対にネガティブなイメージもたくさんありました。例えば怖いなあとか，痛そうだなあとか，自分の血が人の体内に入るのがちょっと気持ち悪いなあっていう意見もありました。確かに気持ち悪いっていうのも分かる気がします。じゃあ献血ってどういう仕組みなのかっていうのを説明しようと思います。まず献血で血を採る。そして病院に運ばれる。そしてそのまま患者さんに輸血される。じゃないんですよ。そのまま自分の血が患者さんに提供されるってわけではないんです。

献血どんなふうに血が運ばれるのかっていうと，まず献血で血を採りますよね。そして一つめが，血液成分ごとに血液製剤となります。これ何なのかっていうと，血に入っている成分などがいろんなふうに加工されて，いろんな薬に変わって患者さんのもとに届きます。それと各地の献血センターに送られます。そして最後に献血を必要とする患者さん，輸血を必要とする患者さんに送られることになります。なので献血っていうのは血液がそのまま使われるわけじゃないんだよってことを，皆さんに認識して今日は帰ってもらえたらと思います。

ちょっと今日は時間がないので，少し知らせてないところもあるんですけど，献血は無償で提供するボランティアなので，例えば献血に行ったらお金がもらえるよとか，何かがもらえるよっていうわけではないんです。そして献血に行ったら，自分の健康状態も分かります。例えば血液型が分かったり，肥満度とかも分かったりいろいろ分かります。

そして献血には全血献血と成分献血の２種類があります。成分献血は先ほど言った通り，いろんなふうに加工されたり，薬ができたりします。そして全血献血の場合は男女ともに16歳から69歳までなので，中学３年生の誕生日の人はいけるのかな？高校生ぐらいからは，もう献血することができます。そして69歳から54歳ぐらいまでが対象です。なので皆さん，ぜひ一度献血に行ってみてほしいなって思います。先ほど言った通り，献血に行ったら何かがもらえるってわけじゃないんですけど，行ってやったぜっていう気持ち，俺献血に行ってやったぜっていうふうに思えると思うので，ぜひ一度足を運んでくれたいいかなって思います。

ではなぜ献血っていう話題を人権学習で話すのかっていうことについて話そうと思うんですけど。献血と人権学習は，本当に

深く関わりがあります。例えば部落の人の血は不浄っていう考え方があったり，ハンセン病患者の血は不浄っていう考え方があったので，輸血の対象とはしないです，無理ですという人がいました。今もいるかもしれません。そして日本以外，海外も見てみると，ナチスの血は優勢であったり，ユダヤの血は不浄であったり，というふうな考え方もあります。そして宗教上，輸血できない人もいます。いろんな宗教があるなかで，血を抜くことは駄目だっていうふうな宗教もあります。全世界に必要な献血に優劣なんてないと思うんですよ。ボクも，先生も，この二人も皆さんも血液は通ってると思うんですよ。そんなものに振り回されないっていうふうに思います。

それでは次に，命を救う献血。献血することでどんなふうに救われるのかっていうことについて説明しようと思います。輸血に使用する血液って，今は人工的に作ることはできないんですよ。やっぱり献血で採った血を加工して薬にしたり，そのまま輸血したりすることしかできないんです。そして献血した血は長期間保存することができません。もちろん数週間数カ月はもちますが何年も保存するとなると，やはりモノが悪くなってしまうので，どんどん新しいものに交換する必要があるんです。そして近年，血漿分覚製剤の一つである，免疫グロブリンの必要量が急激に増加しています。これは何なのかって，分からないんですよね。この免疫グロブリンていうのは，血液を成分を使って，いろんな人のいろんな病気に使える薬なんですよ。それには献血で採った血が必要だ。必要な薬で，それが今本当に急激に必要な状態らしいです。さっき言ったように長期保存ができない。じゃあどうするのか。そのまま廃棄するのかっていうと，それもまた違って，献血の安全性を高めるために，様々な研究等に利用されます。輸血ってすごいリスキーで，人の血を違う人の中に入れるわけだから，100パーセント安全て言える状態じゃないとなかなか難しくて。なのでその安全性を高めるための研究にも使われています。

それでやっぱり，一人ひとりの協力が欠かせません。ここにいる皆さん，100人ぐらいいたら，一人200ミリリットルずつ採ったら20000ミリリットル。20リットル。すごくこの中だけでも多いと思います。なので，一人ひとりの意識の高さを上げることが重要だなっていうふうに思います。そしてどれだけ医療が発達しても，やはり救えない命っていうのがあります。社会を見てみると，献血が必要だけど届かないとか。まずその献血が必要っていうふうに診断されない国もあるんですよ。やっぱりそんな現状とか，献血が必要だけどないっていう今の状態を変えるためには，一人ひとりの協力が欠かせないなっていうふうに，この資料を作りながら思いました。なので皆さんのたった１回の献血が，どこかの，右の人の命を救うかもしれないし，家族の命を救うかもしれないし，世界のどこかの誰かの命を救うかもしれない。それは分からないけど，絶対にどこかでは助けになっているっていうふうな意識をもってほしいなって思います。

あらかた献血については説明したので，では献血によって助けられた命っていうのを紹介しておこうと思います。献血って聞いても，本当にそれで命が救われるのっていうふうに思ってる人がいるかもしれない

ので，少し実例を挙げて紹介をしていこうと思います。

今日話す病気は川崎病っていう病気です。川崎病っていうのは血管に炎症が起こる病気のことです。血の温度がどんどん上がってきて，死に至ることもあります。心臓などの臓器に合併症が起こることがあるため，できるだけ早く適切な治療を受けることが大切です。そしてこれは乳幼児に多いことが特徴で，１歳未満，１～２歳の子が罹る病気です。原因はまだはっきりと分かってないんですが，遺伝子や細菌，ウイルスなどが複雑に関係して発症すると考えられています。そしてこの薬は何が使われるのかっていうと，先ほど紹介した免疫グロブリンが特効薬として使われています。献血された血液から使われています。川崎病において献血は重要な役割を果たしています。

実際に川崎病に罹った子の写真なんですけど。かわいいですね。かわいいですねえ。他にも写真があるんですけど。あーかわいい。かわいいですねえ。めちゃめちゃかわいいですねえ。この子実際に１歳になるかならないかぐらいのころに川崎病に罹った子です。この子は献血がなければ死んでいました。今では医療技術が発達して献血があるので，あーかわいい。かわいいですねえ。献血があるので回復することができたんですけど。もし治療が遅れたり，合併症が発症したりすると，死亡する可能性が大いにあります。現在では，早期発見と治療により，死亡率は大幅に低下しています。昔は１パーセント。100人に１人の子が死んでいたんですけど，医療の進歩により現在は0.1パーセント未満に低下しています。0.1パーセントって考えると，例えば1000人に１人死亡しちゃうわけなんですよ。もちろん医療の世界に絶対助かるっていうことはないと思うんですが，1000人に１人。10000人に10人の子が亡くなってるっていう現状を受け入れるんじゃなくて，まだいけるなっていうふうに，ボクは医療従事者じゃないので分からないんですけど，0.1パーセント，0.01パーセントゆくゆくは０パーセントにするぐらいのことなのかなっていうふうに思います。そうするためにはやっぱり献血が大事だなっていうふうに，この資料を作りながら思いました。主な死因は肝動脈による心筋梗塞です。血液の温度が上がっちゃって，もう動脈が動かなくて，心臓が止まって死んでしまいます。

一つだけ，川崎病について間違った知識を覚えてほしくないんですが，川崎病，人から人にうつる病気ではありません。それはもう証明されています。なので川崎病の人がいても，そうなんだ，大丈夫か，というふうに言ってあげてほしいなと思います。実際にこの子川崎病に罹ったって言ったんですけど，適切な治療を受けたそうで，この後も元気にすくすく育ったそうです。かわいいですね。いやかわいいですねえ。これは剣道をしてるらしいですね。めちゃめちゃかわいいですね。こんな少年が，今はこんなんです。これがこれですよ。ビックリしますよね。そうです。実際にボクが子どもの頃に罹った病気で，母に当時どんなだった？って訊いてみたんですよ。そうしたら，僕が生まれるもっともっと前に，母の友達の子どもが川崎病を発症して，実際に亡くなったらしいんですよ。だから当時は本当に心配したっていうふうに言ってくれました。なので，ボクは献血っていうことに対してすごい意識が高いと思ってて。

それを皆さんにも共有して，日本人の献血に対しての意識の低さを変えられたらなっていうふうに思います。

では少しここで余談です。ボク献血できない体になっちゃったっていうふうに言われました。実際にボク，献血をやっている赤十字社に行ったんですよ。そうしたら受付の人にこう言われました。輸血をしたことがある人からは血が採れないです。えっ，マジで，みたいな。本当に？何でですかって訊いたら，献血って本当にいろんな今でも解明できないくらいのウイルスが紛れ込んでいるらしいんですよ。昔輸血したことがあっても，まだ駄目ですよっていうふうに言われました。免疫グロブリン製剤を使用したので，対象外なので無理ですって言われました。ボクは川崎病に罹って，実際に献血があったから，今ここで皆さんに講演ができているわけですけど，本当に悔しくて。献血できないのかって思って。

いろいろ調べました個人的に。そうしたら厚生労働省のホームページにこう書いてました。輸血をしたことがある人でも，今は何らかの病気を持っていなければ献血は可能です。ボク実際に電話しました。厚生労働省に。そうしたら，いけますよ。「少し前までは，輸血をしたことがある人は，やはり未知のウイルスを持っているので駄目だったんですけど，今は技術が進歩してきて，献血が可能です」って言われました。これ何が言えるのかっていうと，輸血センターの職員でさえ把握してなかったんですよ。把握してないんですよ。それが事実なんですよ。ないことがある。そして献血に対しての意識の低さが顕著に見えたなって思いました。医療従事者の誤解が，結果論なんですけど，もしボクが献血ができなくて，ボクの血が必要だっていう人がいたら，むなしいじゃないですか。すごい。なので，やっぱり日本人の献血の意識の低さを少しでも高めて変えていけたらなっていうふうに今日は思いました。長々とすいません。

最後にまとめです。もしボクが川崎病を発症していなかったら，献血のことなんて考えもしませんでした。分からないですけど，多分考えなかったです。人の命は小さなことで救われるんだっていうことを実感しました。ボクも誰の血を使って助かったのか分からないです。どこかの誰かの血を使って助けられました。でもその輸血してくれた人，ちょっと輸血しに行こうかなって思ってくれた人がいたから助かったわけであって，そんな大きなことはしてないんですよ。３日かけて何か治療をしてとか，そういうのじゃなくて，ちょっと献血に行くだけで，ちょっと血を採るだけで，本当にたくさんの人の命を救えるんだなっていうふうに感じてほしいです。そしてまた，自分が献血したところで周りもしてないじゃんて，他力本願な考え方はやめてほしいなって思います。そんなのでは何も変わっていかないなっていうふうに思いました。自分が誰かの命を救えるんだ，救ってやるんだっていう気持ちで，そういう清らかな意識で生活していったら，やはりたくさん視野が広がって，世界も広く見えるんじゃないかっていうふうに思います。そして世界のどこかの献血を必要とする人たちに，明日も生きるんだっていう希望を持って，自信を持って強く生きてほしいなっていうふうに，強く思いました。皆さんが献血に行くことで助けられる命は本当にあります。なので，献血に行きましょう。

では最後に。ここからは何も考えてきてないんですけど，皆さん人権交流集会に参加して，人権意識がとても高い人たちだなって思います。せっかく人権交流集会に行こうと思って，足を運んで，ここに座って，ボクのしょうもない話をずっと聞いてくれたことが，ボクは本当にうれしくて。そういう人たちが何十人もいるからこそ，いろんな人たちが笑顔で暮らしていけるんじゃないっていうふうに思うので，今日話した献血のこともそうですし，どこかで誰かを助けられるなっていうふうにずっと思い続けて。たぶん明日の朝起きたら忘れてます。ボクの話は。１年後なんて忘れてます。絶対忘れてます。でも心のどこかで助けられる人がいるんだな，自分も人の命救えるんだなって思って，生活してほしいなっていうふうにずっと思っています。

すごい長い話になったんですけど，皆さん聴いてくれて本当にうれしかったです。では本当に最後に一言だけ。この後の全体での意見交流会でのときに，ちょっとだけ話してほしいです。命を救う行動って何なんだろうな。すごく難しいなと思うんですよ。ボクも分からないですこれは。なので皆さんの協力をお願いしたいなと思います。私はこういうことで命を救ったことがあるぞっていう人はもちろん発表してほしいです。他にもこんなことしたら助けられる人がいるんじゃないかな。献血もそうですし，たくさんの意見が飛び交ってくれたらうれしいです。今日は長い間でしたが，本当にありがとうございました。これで話を終わります。

吉成　鳴門渦潮大学医学部

鳴門渦潮高校２年bz　はい，bz です。准教授。

吉成　この話は全然知らなくて。今までいろんな話はね，聞かせてもらったんですけど，この話は全然知らなくて。あ，そうだったんだ，みたいな。やっぱり行く人はいるんだろうな，医療従事者も含めて。自分が輸血をした立場であったり，また輸血を受けた立場であったり。様々な人がいると思うんですけど。ヒットする人はいるんじゃないかなと思って，今日の話をどう思うかなと。みんなどう聞いたんでしょうね。どう聞いたというよりも，どう受け取ったというよりも，このあと私どうしたらいいんだろうと思っている bs さん。ハードル上げられまくって，どうしようみたいなね。いったんここは切るつもりで，好きにしゃべってくれて構いませんので。このあと bs さん話してください。今日で最後？最初で最後が何回も続くんですけど，皆さん１回リセットしてくださいね。フレッシュな気分でね。デビュー戦ですから。

城南高校１年bs　bz 先輩のお話でだいぶフロアは温まってきてると思うんですけど。やさしい目で見ていただければ幸いでございます。まずは自己紹介からします。城南高校１年の bs と申します。部活動は競技かるたとヒューマンライツに入っています。まあヒューマンライツの活動の方はあんまりないので，同じ部活の人が誰なのかも分かってないくらいに本当に何もやってないので。競技かるたの方は週６であるので割と顔を出しておりまして。特に今日は，選手権大会があって先輩方は近江神宮で高校生ナンバー１を決める闘いに参加しておりま

すね。頑張ってほしいですけれども。私も来年はあの場に立たなくてはいけないということで頑張りますけれども。

私は今回のテーマにあるように，たくさんの個性に彩られた世界ということで，個性についてお話しようかなと思っております。皆さんにとって個性って何ですか？と言われても，すぐには出てこないとは思うんですけど。小学生か中学生のころ，私は個性っていうものは，スポーツがめっちゃ得意とか，楽器がめっちゃできる，奏でられるとか，そういうプラスなもの。大会で優勝したとか，そういうものを個性だと思っていました。それが変わったのが中３の頃の話なんですけれど。

私は中学生のころ部活は箏曲部に入っておりまして，お琴を弾く部活なんですけれど。そこにいる市高と北高の二人も私と同級生で箏曲部に入っていた方なんですけど。まあ３年間やっていたわけなんですけど，どうしても私より弱い人っていうのは出てくるわけで。私もめちゃめちゃ頑張ったのは頑張ったんですよ。頑張ったのは頑張ったんですけど，それでもやっぱり上手い人はいるじゃないですか。世の中には。努力っていうか，能力以上の才能みたいなものがあると思うんですよね。それで私以外にめっちゃ上手い子がいて。bv ちゃんも割とそのタイプだったんですけど。by ちゃんも。by ちゃんも bv ちゃんもそのタイプだったんですけど。明らかに上手いんですよね。明らかに上手いと，すごい悔しいんですよ。悔しいし，それができない自分が嫌になってくるし。すごい，どうしようもない劣等感になって，その子が悪いわけじゃないんですけど，すごい負の感情を持ってしまったりすることもあったんですね。

今やってる競技かるたでもめっちゃ上手い子がいたりして。同い年なのに，ほぼ同じときから始めてるのに，なんであの子こんなに上手いんだろう，私はなんでこんなにできないんだろうって思うことがよくあって。それでめちゃめちゃ悔しかったんですけど。

コンクールがありまして，箏曲の。それが７月の終わりにあったんかな。中３の７月の終わりにあって，それが終わった後，卒部した後，そのときに後に残ったのって，結局上手くできなかったなとか，あの子よりも上手くなれんかったなっていうんじゃなくて，あの子とできて良かったなとか，このみんなと弾けて，箏曲部として活動できて良かったなっていう気持ちだったんですね。絆みたいな。仲間としての絆とか，みんなのやさしさとか，頑張っていこうっていうやさしさとか，そういうのも私の心にずっと残っていて。それも私は個性だと思うんですよ。その絆みたいな。やさしさだとか。みんなのやさしさとか。私の，自分の心に落ちていくもの。自分を形成するものすべてが個性だと思っていて。特に絆だとか，やさしいとか，人望だとか，そういう外見じゃない，内面的な見えずらい，人からは見えずらいものを，見えない個性と呼ぶとして，その見えない個性をすごく大事にしてほしいと思うんです。もちろん上手い下手とかもすごい大事だと思うんです。上手かったら，１位になるとかめちゃ弾けるとかも大事だと思うんですけど，その人の心の持ちようだったりも，すべて個性としてあると思っていて。自分を形成するすべてが自分の個性であって，普通のみんなが一般的に当たり前にできることは個

性であって。

例えば，簡単な文字とかって書けるじゃないですか。日本語を話したり，書いたり。軽い計算問題とかも，たぶん皆さんできるとは思うんですけど。それが当たり前じゃなくて，自分の個性であって，当たり前って言葉に潰されないでほしいなって思います。生きるってことがそもそもすごいことなんで，みんなこのストレス社会に生きる中で。いろんな圧とか嫌なこととかいろんなことがあっても，それでも前向きに生きているってことが，皆さん素晴らしいことであって。この命があるってことがかけがえのないことだと思うんですよ。だからこそ，自分を形成するすべての個性を大切にしてほしいと思います。

ここまでの話は，自分を形成するすべてを個性とするならば，その個性を尊重する。ということは，例えば犯罪をした犯罪者が犯罪をするってことも個性として認めないといけないのかっていう話に反論としてなっていくと思うんですよ。これについていろいろ結構考えたんですよ。これ昔中学生集会で出た話題だったはずで。それがずっと心の奥の方にモヤモヤっとしていて，どうなんだろうなって考えていたんですけど。犯罪をするってことはまず悪いことではあるんですよ。いけないことではあるんですよ。でもその動機にもよるし，そのしたことを反省して，次につなげていくっていうか更正するみたいな，その期間もまた見えない個性だと思うんですよ。その変わっていく期間。ていうことで，犯罪したっていうことと，その犯罪をしてから更正するまでの期間も，また見えない個性として尊重すべき部分なのかなと思っております。

負の部分て皆さんあるじゃないですか。自分のコンプレックスに感じている部分だとか。私だとよく最近傘の忘れ物をすることがよくあるんですけど。めちゃそれで友達にまた忘れとるやんて言われたりするんですけど，そういうことも自分で抱えながら生きていくっていうのも，また見えない個性なのかなと思ったりはします。だからまず，生きているっていうこの状況に対して，自分すごいんだって思ってください。そのうえで，いろんな経験とかをなしていって，そこからその個性を，たくさんの個性を集めて，また新しい自分へリニューアルというか，次のステップへ踏み出せるようになってほしいです。私もまだその途中なので，なかなか人に言えるようなものではないんですけど，皆さん自身もリニューアルしていけたらいいのかなと思います。新しい価値観とか，価値観もまた個性となりますから。自分のすべてをいったん愛してみるという作業も大事なのかなと思います。長くなってしまったんですが，拙い話を聞いてくださりありがとうございました。

吉成　今の話で言えば，先生というのは非常に罪作りな人だなと私は思っていて。というのは，人と比べるから優越感を持ったりとか劣等感を持ったりするわけでね。その比べるトレーニングを学校は徹底的にやっている場所ですよ。テストをやっては順位をつけ，通知表を出しては上下をつけみたいなね。なんかね，嫌なんですよ，学校の先生。私ですけど。嫌なんですよ。テストする度にね，劣等感を抱かせてしまっている。妙な優越感も持たせてしまっている。それを繰り返し繰り返しやってきているようで，今の話を聞いていると非常に申し訳ない気持ちになりました。だからテストは

どうしても仕方がないからするんだけど，返すときに私，結構な頻度で言ってるのは，評価基準は自分であってね，そのテストの点数が良いと思えばそれはそれでいいし，悪いと思えばそれはそれでいいわけであって。だけどその点数でね，劣等感を持つのはやめようよって言ってるんです。私の授業で言ってましたかね。劣等感を持つのはやめようねってよく言ってるような気がします。妙な劣等感を持つことの方がもったいない。そんなもったいないことはやめようねみたいな。それからもう一つ大事なこととして，犯罪は個性かというとこで。今すごく大事なことを言ってくれたのは，更正って言ってくれたのがすごく大事なことで。というのは日本は死刑制度があるんですよ。死刑制度がある国は世界的に見ると少ない方なんですよ。だけど彼女が今話をしてくれたなかで，死刑についてはふれなくて，更正って言ってくれた。

城南高校１年bs　だから死刑制度はなくした方がいいとは私は思っています。無期懲役もちょっとずつ減らしていければいいのかなとか，もうちょっと刑期を短くとか，いろいろ方法はあるんじゃないかなとは思っていますね。

吉成　私らが人殺したら犯罪者でしょ。国が殺すのは犯罪じゃないのかっていうね。国は人を殺してもいいのかっていう。思いません？皆さん。だって人殺したら絶対犯罪者でしょ。国は殺していいんですか，と思ったりするんです。すみません，bw ちゃん。しゃべる時間奪っちゃってすみません。どうぞ好きなようにしゃべってください。もう最後ですからね。最後，徳島商業高校２年生，bw ちゃん。ここの OG です。どうぞ好きにしゃべってください。どうぞ。

徳島商業高校２年bw　皆さんこんにちは。徳島商業高校２年の bw です。部活は書道部に入っています。今度11月に鳥取に行くんですけど，近畿高校総合文化祭っていうのに，徳島県代表として作品を出品することになったので行くことになりました。またよろしくお願いします。

今日話す内容としては，今私は人権こども塾っていうのに行ってるんです。吉成先生と森口先生がやってくださってる。それが高１に進級してから入ったんですけど，２年めになります。それで初めて外に行って実際に現地で学習した，初めてみんなで現地に行って学習したことについて話したいなと思っていて。それは去年の７月になるんですけど，去年の中学生集会が終わって１週間後。岡山県の長島愛生園と邑久光明園，ハンセン病療養所に，こども塾のみんなで一泊研修として参加しました。そこでハンセン病元患者の方とか施設見学とかしたり，交流したりして，ハンセン病のことについて学びました。そこで私がマイクを握って話したこと，なぜあのとき，あの話をしたのかなっていうことについて話したいなと思っています。

何を話したかっていうと，自分の親のことについて話しました。たぶん行ったメンバーは薄々，このことかなと思ってくれていると思うけど。自分の両親は難病を持っています。今も，この医療が発達したなかですが治りません。治療法は見つかっていないです。両親とも。病気は違いますけど。それで毎日薬が手放せない生活を送ってい

て，母はそのことを隠しながら仕事をしています。父は去年転職して新しい仕事をやってるんですけど，障がい者雇用として働いています。一応障がい者認定というか，障がい者手帳を持っているんですけど。なぜそんなことを話したのかっていうと，ハンセン病元患者の方と直接お話する時間があって，元患者の方に，家族との交流ってあったんですかっていう質問をしたときに，長島愛生園の方は，もうここに来てからは一切交流をしていないと言われて，邑久光明園の方は年に数回かは会っていた。けれども離れて生活をしていたのは事実で，そのことを聞いて，自分がもしその立場だったらっていうことを考えて，マイクを握って話しました。自分がもしその立場だったら，私は耐えきれないなって思ったんです。

すごく私は，両親のこともそうですけど，妹のことも尊敬していて。両親は病気を隠しながら仕事してたり，就職差別にも遭った当事者で。コロナ禍にちょうど緊急事態宣言が出た最中に入院したことがあったんですね。父が。そのときってやっぱり面会謝絶で。誰も面会できない状態で。３カ月ほど離れて生活していました。自分はそのとき，小学校４年生か５年生だったかな。すごくつらいし，寂しい思いを経験しました。けど病院では父もつらい思いをしているだろうし，しんどい思いをしているだろうと思うと余計につらかったし，会えない，電話でしか話せないっていう状況が続いたのがすごくストレスでした。離れて生活していた実体験もあり，その話が身近に思えたので，上手く言えないんですけど，いろんな差別体験とかをした人たちが，今すごく私たちのために仕事をしてくれていることをすごく誇りに思っていて。でもそのことを周りの友達に言ったら，bw の家は何かちょっと違うよなみたいな反応をする子がおって。それがすごい悔しくて。他の家と比べることではないのに，今頑張っている父と母がいるのに，そんな反応されたのがすごく悔しくて。ハンセン病のことを学んだときに，すごく元患者の方たちの思いっていうのが，自分事のように思えてすごく悔しかったし，その日にいろいろ詳しく学んでいくにつれて，二度と起こしてはいけないことだなっていうのは感じました。

コロナのときもそうだったと思うんですけど。コロナに罹った人が誹謗中傷に遭ったじゃないですか。車に落書きされたりとか。変な手紙を書かれたりとか。県外ナンバーとかいう理由で嫌なこと言われたりとかあったと思うんですけど。それも元患者の方が言ってたんですけど，それはハンセン病のことと通じるよねって言っていて。その元患者の方たちは，すごく危機感を覚えてらっしゃってて。コロナのときにまたハンセン病のときと同じようなことを繰り返しているっていうことをおっしゃってたのがすごく心に残っていて。ハンセン病のことで，それ駄目だってみんな思っていたのに，また同じこと繰り返したらまた同じような思いをする人が増えてしまうっていうのが，すごくいけないことだなって思っていて。けどハンセン病のことについてもあまり詳しく知らない人がたくさんいて。だから同じ過ちを繰り返してるのかなっていうのをすごく思いました。夏休みにそのことについて作文を書いたんですけど。自分の思いを最後に書いたんですけど。私は「無知は恥」だなってすごく思って。何でもそうなんですけど，いろんな人権問題に

通じる部分があると思うんです。コロナとかハンセン病問題とか狭山事件もそうですし，いろんな人権問題って，正しい知識を知ってないと間違った知識で理解してしまうのはすごく怖いことだし，いけないことだなと思っているので。自分の学校とか，ここにいるみんなとかにもちゃんと正しい知識を知って，人権意識を変えて，他人事ではなく自分事に捉えて人権問題を少しでもいい方向に持って行けたらなって思います。以上です。

吉成　bw さん，お腹すきました？あのね，本来であれば意見交換を30分とってたんですけど，ほぼ12時に近い時間になって。ただ，今話してくれた３人に感想なり意見なりは述べてもらえたらなという思いはあって。ただべらぼうに手を挙げられると，それは困る話で。１回こっきり手を挙げた人だけに意見発表というか感想というか，受け付けてもらえたらなと思うんですけど。

「フロントライン」という映画があったんですよ。今もしよるかな。ダイヤモンドプリンセス号の事実に基づいたって言われるストーリなんですけど。先週観てきたんですが，大変だったんだなということは伝わってきました。ずいぶんと美化してる部分はあるんでしょうけど，それでもあの大変な渦中で懸命っていうか，我が身を犠牲にして，我が家族を犠牲にしていた人たちの姿を見るにつけ，ハンセン病を学んでいたんだけど，実は学びきれてなかったんだろうなって気がするんです。形だけは学んだんだけど。形だけは学んだんだけど，本当の意味では学べてなかったんでないんかな，我々は。そんな思いを抱きました。司会者さん，マイクお返ししますけど，１回こっきりだけ，発言したいに手を挙げてもらって，その人だけ言ってもらって構いませんか。

司会者(ak)　感想がある人は手を挙げて，マイク係からマイクをもらってください。

大麻中学校卒業生(co)　お久しぶりです。co です。ずいぶん前の実行委員会に出させてもらって，久しぶりに帰ってきました。仕事しながらで忙しくてお久しぶりです。今日も遅くなって，初めの方の話聴けなかってすみません。

感想は言えないんですけど，あとの二人の話で，bs さんの話で個性が大事だっていうことで。まあいろいろ仕事する中で，同期入社して一緒に進んでいってるはずなのに，友達の方が上に行ったり，逆に自分が追い抜いたりっていうのはあるんやけど。まあ人やけんね，得手不得手，得意不得意はあるんですよ。なので自分の得意なことはいっぱい伸ばしていきましょう。自分を認めて。不得意なことはカバーし合って。自分はこれが不得意やけん，どうしようか。それでその友達が，これが得意でした。だったら一緒に手伝ってもらって。一緒に学んだりっていうことができるので，劣等感を抱かずにそれをオープンにしていって，誰かと助け合う，協力してもらうっていうのが大事かなと思います。

bw さんの話でコロナの話があったと思うんですけど，ボク医療従事者，看護師をしてます。こんな髪型で。この髪型は，認知症の患者さんとかお年寄りの高齢者の方が多いんですよ。そしたら，何せ覚えてくれんのですよ。あんた誰やったん？その印象づけで，ちょんまげとか，お相撲さんとか。話しに行ったときに，あんたまた来てくれたんやなって。お相撲さんですって言って，印象づけしてます。これしてから８割方覚えてくれます。

話は脱線したんですけど，コロナの話で。みんなたぶん知ってると思うんですけど，南海病院がコロナ第１(発症)で，そのとき勤めてました。まあ最初はね，初めてのことで大きい病院と比べて精神科なもので，感染対策なんてまったくできてませんでした。一気に感染が広まって。瞬く間に仲良かった患者さんとか亡くなりました。そのなかで国の方から指導が入って，こういうふうにしてください，こういう感染対策とってくださいっていうことで，徐々には収まってきたんですよ。もちろん家族とも隔離されてました。職員も隔離されてました。働いているということで。実はボクの母親も難病を抱えてまして，今は阿南の方で２週間に１回通院してます。コロナに罹ったら間違いなく死にます。その状況でボクも。ある職員の話が全体であがって。病院は端の方だから，高島っていうところで，渡船，船で通勤してる人がいて。まあじいちゃんばあちゃんが多いわけですよ。利用する方も。そしたらどこからか漏れたんでしょうね。うちの職員がおるって。コロナっていうこともバレとったんです。そしたら船に乗ったときに，「あんたもう入ってこんといてコロナなんだろ。もううつされたら死んでしまうわ」って。気持ちは分からないでもないけど，ほのときは仕方ないけど，強い憤りを覚えた。そっと一人に言って何がしたいんなって。そういう感染病で，人に対してそんなこと言っていいんて。人権意識低いなって。

これから中学生・高校生働いていくうえで，結構人権の問題って出てくるんですよ。例えば職場の先輩からいきなり，入ってきた患者さんに，あっこの人部落の人じゃって，ポッというんです。突拍子もなくホンマに。ボクも意識してなかったことを急に言うんですよ。けど先輩やけん，なかなか言えんわけですよね。けど反論したんですよ。患者さんは命助けてもらいたいとか，治療してもらいたいから来てるわけで，誰がどこの出身とか関係ないん違うんですかって言ったら，ああ，うん，みたいな感じだったんです。「無知は恥」って，まさにそこだったんです。その発言によって何が起こるか分かってない。やっぱりこういうところに参加して，みんなと勉強して学んでたら，無知じゃなくなるわけですよ。人権問題の何らかのことにかかわって，あれ，これおかしいんじゃね？って気づけるってことはみんなちゃんと勉強したし，こういうふうにしてくれてるから分かることなんですよ。これからもそれを大事にしてほしい。社会に出て理不尽なことあるけど，自分の中に一つ持っておけば違うと思うんですよ。そんなに怒ったように言わなくていい。冷静に，ボクそれ違うと思うんですよって言えるようになるんです。気づけるんです。それを大事にしていってほしいなっていうのが，ボクの思いです。

瀬戸中学校２年(aj)　私は bz さんの話，献血について言いたいんですけど。私のパパが結構前に事故に遭って，血がなくなって危なかったときに，顔も分からない名前も分からない誰かが血をくれて助かって。パパは生きることができました。その血がなかったらパパはもういなかったと思うし，結

構いっぱい支えられて生きてこれたので，おらんようになっとったら寂しいから，今は元気で，ゴルフしたり，友達と夜中までお酒飲んで騒いだりしてて，うれしそうに笑って良かったなっていう思いでいっぱいです。私も18歳，成人になったら，大切な人がいなくならないように，悲しむ人がいなくならないように，私も献血してみたいなと思いました。ありがとうございます。

高瀬中学校２年(ax)　bw さんの話の中で，最後の方に言った「無知は罪」という言葉はボクはめちゃ好きで。そのせいか，１を知ってしまったときに，100まですべて知り尽くすっていうことをよくやってしまうんですね。その知る過程で，本で調べたり，インターネットで調べたりするんですが，一番大切にしていることが，自分で経験するっていうことを大切にしています。その経験したことっていうのは，どんなものよりも強い情報だと思っているので，こういう人権集会に参加したり，ボランティアだったり，いろんなところに行って，自身で体験するっていう。そしてその情報を自分のなかに入れる。それがすごく，自分のなかでモットーにしている，「無知は罪」っていうことを言ってくれたことがすごくうれしくて。うれしかったです。

小豆島役場(cz)　３人の方，ありがとうございました。小豆島町役場住民生活課の cz と申します。bz さんですかね，生きていてありがとうございます。ていうのも，自分の子どもも川崎病になったことがあって。言っていただいた血液のグロブリン製剤で１回めは効かなくて，２回めしたときに効いてくれたので生きることができて。今年社会人になったところなんです。昨日ちょっと大阪の方で勤めてるんですけど，小豆島の方に帰ってきて一緒にご飯食べようってことになってるんですけど。

自分も献血が趣味っていうわけじゃないんですけど，この前４月12日に400ミリリットル以下の献血で113回になるんですけど。とりあえず自分100回が目標だって。今度は勝手に自分事なんですけど，123回っていうのを目標っていう感じで増やしていこうかなみたいな形で考えてます。献血自体が，これだけ bz くんが調べてくれて，実際ここまで言ってくれるのかみたいな感じだったので。広島のコーディネーターを通じてドナーの相手の人は決まってたんですけど，中学時代野球部で椎間板ヘルニアをやってしまって。結局ドクターストップっていう形で態勢が腰に負担がかかるということで実現ができなくて。そういうことで言うと相手の方もたぶん期待してたかもしれないから，ということでやめてしまってるんですけど。献血は続けていきたいと思います。

あとパネリストの方のキーワード，人権キーワードで新しいことを知るっていうのと他人事ではなく自分事と捉えるっていうのは，すごい大事なことだと，個人的には思ってます。本当に世の中にはフェイクニュースがいっぱいあって，自分で現場に行って確かめるっていうのが一番だと思います。自分で経験することって言われた方もおいでると思うんですけど，すごい本当に大事なことだと考えています。今自分自身が人権啓発の担当に去年からなってるんですけど，人権啓発に研修に来られる方は人権意識の高い方が参加される傾向にあります。なので人権意識の低い人にいかに啓発するかっていうことが，自分のなかでの課題なので，研修会などに行ったら必ずそういうことが，四人研の大会もあったんですけど，そのことが議題になって。みんなどうしていいかが，来てくれるんやろうかっていうことを真剣に考えてるような感じで，自分の中ではそれを模索しているような状況です。すみません，簡単ですけど以上です。

大山中学校３年(as)　私は bz さんの話を聴いて。私も保育園のときに川崎病に罹って。小６まで，１回治ったんですけど，ちょくちょく病院に通って検査を送っていました。それで小６のときに担当してくれた先生に，川崎病ってどんな病気か知ってる？みたいなことを訊かれて。いや知らないんですよって言ったら，簡単に説明してくれたんですけど，人から血液をもらったみたいな話は聞いたことがなくて。bz さんの話を聞いて，あっ私，人の血液で今ここにいるんだなと思って，すごく感動して。私も誰かに献血をして，誰かの人の命を救いたいなって思いました。

司会者(ak･al)　まだまだ発表はあると思いますが，このあたりで全体会午前の部を終了させていただきたいと思います。最後に，もう一度拍手をお願いします！

さて，このあと，昼食・休憩となります。お弁当を注文された団体は，お弁当の引換を行いますので，代表の方は１階玄関，受付をした場所へお越しください。後ろで行います。なお基本的にお弁当は，この３階大会議室となっております。

また，後から来られて受付をされていない方も，１階受付へお越しください。

さらに，まだ名札をつけていない方は，名前がわからないので，このあとこの大会議室の入り口外の机でつくり，必ずつけておいてください。

なお，午後の部の開始時刻は１：００です。遅れないように，元の場所に集合してください。よろしくお願いします。それでは，いったん解散してください。